

授業

In My Case | 1・2年次



1年次

先生の解説で無理なく学べる「舞台芸術と身体表現」

舞台やダンスについて解説する授業ですが、「表現とは何か」といった難しい内容も出てきます。最初は、不安もありましたが、先生が質問に丁寧に答えてくださるので、高度な知識を自然と身につけることができました。

2年次

「現代文化表現学研究入門」では大手出版社を訪問

課題が出され、女性ファッション誌について調べることになりました。実際に大手出版社を訪ね、編集者にトップモデルに関するお話をうかがう機会を得ました。実際の制作現場を目にするという、刺激的な経験ができました。



授業で出版社を訪問し、レポートを作成

ATOMI
のひとみ

これまでの経験を雑誌づくりの演習で生かしたい

3年生になると、プロと一緒に雑誌を制作する授業があります。これまでは漠然とファッション誌を手にとっていましたが、最近では、雑誌ごとの違いを分析するようにもなりました。結果を制作に生かすことが楽しみです。



デジタル表現基礎実習

伊藤 穰 准教授

動画やWeb制作を通してパソコンの実践的なスキルを修得。デジタル表現のさまざまなメディアについて、幅広く技術を学びます。具体的には、写真の加工や編集などの画像処理、ボーカロイドなどによる音楽制作と編集、フラッシュアニメーションの制作、そしてWeb制作などを体験します。授業の最後には、これらの技術を組み合わせ、自分一人でオリジナルの動画を企画し、制作します。学内のパソコン教室で、フリーソフトを中心に課題に取り組みながら実践的に技術を身につけていきます。

ファッション文化論

富川 淳子 教授

ファッションから探る社会や文化

ファッション文化の伝達において重要な役割を果たしてきたファッション誌。この授業では「おしゃれスナップ」や「着回し」などファッション誌の特集を通して、ファッションと社会や他の文化との関係性を考察します。

現代文化表現学特殊講義(身体)

横山 太郎 准教授

サイボーグ的身体像を探る

この授業では、テクノロジーと共に生きる人間の身体像のありようを表現する「サイボーグ」というイメージに注目。ポップカルチャー、芸術作品、哲学思想を横断しながらサイボーグ的身体像の展開と行方を探求します。

クローズアップ

ゼミナール

ゼミナールは、少人数のメンバーで行われる対話型の授業スタイル。調査・研究・発表の方法を学び「演習」とも言われます。



現代文化表現学演習

副島 善道 教授

映画を文化芸術の視点から学び、自ら表現する

このゼミナールは文化表現の研究を映画を中心に進めます。人間のさまざまな表現形式の多重構造が映画の特色であり、これは表現内容の多重性をよく示します。映画を個人の狭い趣味からは語らず、このような文化・芸術の普遍的な視点から理解できるよう、グループワークと個人研究を組み合わせることで2年間の学びを体験します。こうして人間の表現意欲とその技術が人間にとって極めて重要であると知る、これが最終目標です。

卒業論文・卒業研究のテーマ (2014年度/一部抜粋)

- 日常を表現するコマー『よつぱと!』の時間の表現
- アパレルのTVCMに対する earth music & ecology の影響について
- 会話のいらぬ世界—湯浅政明の言葉と空間
- 時代の風を表現する演劇の中の女性像
- 映画における美術の役割
- ストーリーに引き込む映画美術
- フェミニズムの観点から見た宝塚歌劇
- 商業映画として、児童の権利侵害を描くということ
- 映像作品で“子ども”はどう扱われるべきなのか
- ミュージカル『テニスの王子様』における歌詞の力
- 『Shall we ダンス?』と『Shall We Dance?』の文化表象—リメイク作品に見られる異文化理解
- 劇団四季メソッドの確立と変容
- 『なんちゃって制服』の誕生と普及の要因
- 実況プレイ動画から見るゲーム文化の新たな発展
- 二次元と三次元の融合 短編映画～ Colorless Palette ～の制作

In My Case | 3・4年次



3年次

アドリブ力も身についた「パフォーマンス実習」

「パフォーマンス実習」は、演劇の演出家でもある先生の指示に従って体を動かすというユニークな授業。自分の表現の幅が広がるとともに、とっさの判断で行動するというアドリブ力がつき、就職活動にも生かされました。

4年次

卒業論文では映画と演劇を比較研究

高校時代から演劇部に所属して演劇一筋だった私が映画に興味をもったのは、この学科でさまざまな芸術表現を学んだからです。4年生では映画研究のゼミナールに入り、映画と演劇の比較をテーマに卒業論文を書き上げました。



さまざまな映画や舞台を鑑賞しました。



大学で学んだ「表現すること」を生かした仕事に

大学では表現することを学んだので、今度はそれを教える立場になりたいと思い、正社員として働けるヨガのインストラクターに。お客さまとともに自分も楽しめるエンターテイナーのようなインストラクターをめざします。